

みたか環境ひろば 第80号

令和4年7月22日号



環境連続講座「みんなで考えよう みたかのSDGs」第1回 「食と農から考える明日からできること」を開催しました！

スーパーに行けば、たくさんの食べ物がきれいに並んでいる。私たちは、それらを「誰が」「どこで」「どのように」作ったのかを気にせずに購入している。でも、農薬や遺伝子組み換え、添加物などが不安。また、食事を十分に食べられない人がいるにもかかわらず、過剰に生産されたり、売れ残ったりすると廃棄されるという現実。日本の食糧自給率は低いにも関わらず、農業就業人口や耕作地が減少している。このような状況の中、都会に住む私たちに何ができるのだろうか。

そんな不安を抱えて聞いた芹澤孝悦（プランティオ株式会社）さんの講演。世界的に広がるアーバンファーマーミング。都会の空き地、屋上、廃線になった線路の上、空きビル、公園などいろんな場所で、仲間や家族と楽しく野菜や果物を育て、みんなで楽しくいただく。そんな取り組みが広がっているという。

その、アーバンファーマーミングを日本でもIoTとAIを活用して展開しているのが芹澤さん。恵比寿や渋谷、竹芝などで企業や行政と一緒に取り組んでいる。また、その機器はCO₂削減量、気温の推移、ヒートアイランド現象への貢献度、生産量、食料自給率など社会環境についての影響の可視化も可能とのこと。

「種をまく」「みんなで育てる」「みんなで分かち合う」そんな顔の見えるコミュニケーションが地域の安心・安全を支えるという。素敵だし、なんととっても楽しそう！三鷹でも是非やってみたい、と思った。（藤田）



★講演会の様子★

「三鷹の紫草(むらさき)」



紫草の花

かつて三鷹にも多く自生していたムラサキ科の耐寒性多年草、紫草（ムラサキ）を知っていますか。古くは万葉集にも登場し、1200年ほど前から染料や漢方といった形で日本人と密に接してきた有用植物です。初夏から夏にかけてかわいい白い花が咲きます。花は白いのに、根っこは赤々とした紫根（シコン）なのです。

その紫根の染め物を復活させるため、3月に大沢の里古民家で種を蒔く活動がありました。どんなふうに育ち、染色ができるのかな？と期待して参加しました。セルポット（苗を育てるためのトレー）に1粒ずつ種を蒔き、各自で種を持ち帰る作業がありましたが、自宅でも種を蒔き育ててみました。しかし、芽が出ませんでした。

その後、5月に「紫草のお引越し」ということで、発芽した苗を持ち寄り、大雨の中、高さ60cmの塩ビ管8本に移植しました。その後、2年目の苗は、北野中央公園内の紫草コーナーに植えられ、第五中学校、中原小学校、東台小学校に2鉢ずつ設置し、観察をしていただいています。ちなみに中原小学校の校章は「むらさきの花」だそうです。各学校では白い花が咲き誇り、種がつき始めました。染色できることが楽しみです。（大平）



塩ビ管に移植した紫草

停電から、おうちを守る クルマde給電



もしもの停電時でも あなたのおうちは電気を使える。

突然の停電時でも、クルマが電源となりおうちに給電する事が出来る「クルマ給電」。ご自宅での安全が確保できる場合には、災害時の「在宅避難」が可能になるので避難時の密集リスクや、プライバシー問題などの不安も低減出来ます。

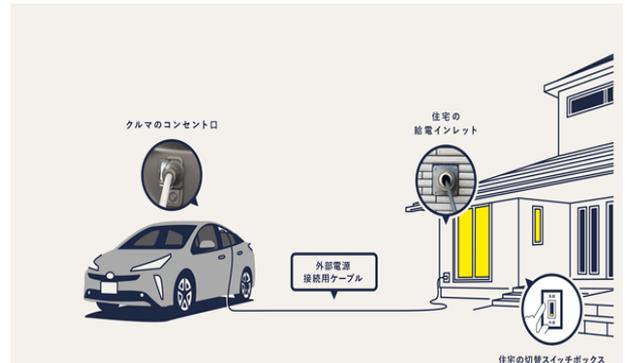
【突然の停電だからこそクルマで備える安心】

停電時でも在宅避難が可能になるので赤ちゃんやペットなど、避難所に連れて行きづらい家族も安心。

まさかの災害が次々と起こる時代、防災を、もっと身近で簡単なものにしませんか。

【不安な停電時に大きな安心となる1500W】

電気を使う事が出来れば、厳しい暑さや寒さをしのげるだけでなく灯り・食事・情報を同時に得ることが出来ます。消費電力が400Wなら、約4.5日も電気を使用可能（プリウスの場合）

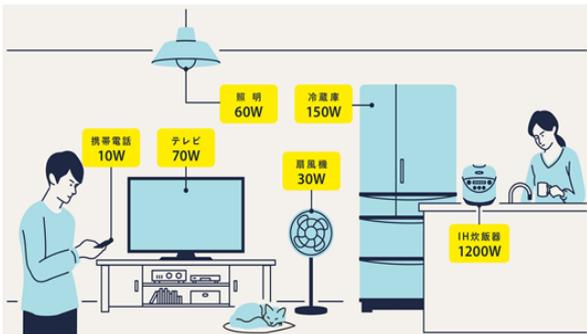


【電力使用例】

停電時に最も必要とされる電力の灯りや冷蔵庫、調理器具などが使用できます。

「クルマde給電」はライフライン復旧までの自立した安心の在宅避難をサポートします。

(トヨタモビリティ東京株式会社：矢澤)



★★★ 環境掲示板 ★★★

環境ポスターを募集します！ テーマ「100年後の三鷹 ～今、私たちにできること～」

青い空や星空、きれいな水や空気、多様な生き物、豊かな自然…自分のため、未来のため、環境のために何が出来るでしょうか。絵とメッセージで私たちにできることを多くの人に伝えてみませんか？

対象：三鷹市民（在住、在学、在勤者）令和4年度から、子どもから大人までどなたでも応募できます！

応募規格：B4サイズ(257 × 364mm)または八つ切りサイズ(271 × 382mm)の画用紙にメッセージとともに手書き

裏面に、①住所②氏名③電話番号④年齢⑤学生は学校名・学年・組を記入⑥市外在住者は勤務先名を記入

応募：〒181-8555 三鷹市環境政策課(住所不要) 令和4年8月31日(水)必着

審査・表彰：三鷹市環境基金活用委員会が審査し、令和4年10月上旬以降に表彰式を開催予定です。

応募者全員に参加賞(カレンダー)を差し上げます。



編集後記

6月は環境月間でした。今年度から始まる新しい取り組み環境連続講座が始まりました。

日本には「もったいない」という素晴らしい言葉があります。ノーベル平和賞を受賞したケニア出身の環境保護活動家、ワンガリ・マータイ氏が2005年2月、来日したときにこの言葉を知り、「MOTTAINAI」とローマ字に変換し、世界共通語として普及させようとなりました。今一度『「もったいない」の国日本人』として世界の模範になるよう率先して過ごしたいと思います。(石原)

次回の発行は令和4年10月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-29-9612 (直通)

E-mail:kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。